

サラブリ救世自然農法センターの 王室プロジェクト

普及部 国際課



間引き収穫する
ワチャラコン氏



株元に土寄せをして
スコール対策



収穫間近の稲

自然農法の発信地

世界への自然農法の発信地の一つ
と言えるのが、1988年にタイ国
サラブリ県ケンコイ地区に設立され
たサラブリ救世自然農法センター
(以下、サラブリセンター)です。
約75haの農地で、化学肥料や化学合
成農薬を全く使わずに有用微生物
群(E.M)技術を活用した自然農法
を実証展示しています。ここでは毎
年数多くの自然農法研修会が開催さ
れ、タイ国内や東南アジア各国をは
じめ、多くの国々の人たちが自然農
法を学びに訪れています。その延べ
人数は、海外からの研修参加者が40
数ヶ国約2800人、タイ国内参加
者は約7万人にも及びます。
今回は、このサラブリセンターで
実施されているタイ国の王室プロ

ジェクトの新理論農業に基づく自給
自足型農園(5ライ=0.8ha)を
紹介します。

王室プロジェクトの 新理論農業とは

この王室プロジェクトは、
1997年のアジア金融危機に際
してタイのプミポン国王が提唱し
た「足るを知る経済(Sufficiency
Economy)」が元になっています。
「足るを知る経済」とは仏教の「中道」
の教えに基づく考え方で、過度な欲
望を抑え、自給自足的な複合農業・
有機農業に立ち返ることを目的とし
たものです。

そこで新しい理論の農業として、
単一の作物を栽培するのではなく、
土地を30・30・30・10に分け、それ
ぞれ池・水田・畑・住居・畜産に割

り当てる複合型の自給自足農園が提
唱されました。その中核となる考え
方は、1軒の農家が自給自足できる
システムを作り上げ、余剰分を販売
し収益とすることで、農家の自立と
生活の安定を目指すというもので
す。特にポイントとなるのが池です。

これは、雨季と乾季がはっきりと分
かれているタイ特有の気候に対応す
るために作られ、雨季の雨を確保し
て乾季でも栽培を続けられるように
しながら、魚の養殖も行おうという
ものです。

5ライの農園と担当者

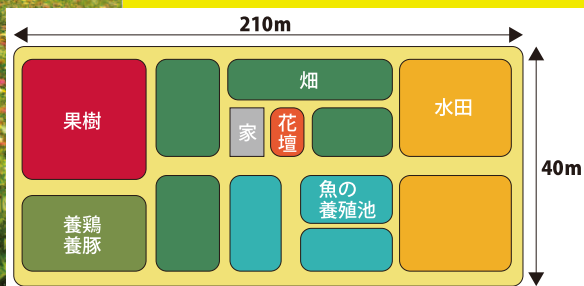
サラブリセンターでは、王室プロ
ジェクトとして取り組む5ライの自
給自足型農園を、訪問者の目にとま
るようにセンター農場の入口付近に
設置しています。現在、担当者とし



プロジェクト担当者のワチャラコン氏



王室プロジェクトに取り組む
サラブリ救世自然農法センター



自給自足型農園の見取り図
(5ライ=約0.8ha)



豚舎で育てている
かわいい子豚たち

てこの農園を管理しているワチャラコン氏は、チェンマイ県の出身で、サラブリセンターで7年以上に渡って自然農法に熱心に取り組んできました。ワチャラコン氏の自然農法にかける情熱は栽培している作物に表れており、畑・水田・果樹はとも生き生きとし、鶏・豚・魚もみな健康的によく育っています。

栽培の利点と難しさ

サラブリ県はバンコクより若干涼しいとはいえ、冬と称される時期でも最低気温が20度以下になる日数は限られ、日中は約30度にもなります。そのため、他の東南アジアによくみられる周年栽培が可能となりますが、作物栽培の回転が速いうえ、雨季・乾季の季節変化への対応や虫害が多いなど、実際の栽培では、細かな自然の変化への対応が求められ、慣行栽培でも上手に周年栽培をする事は難しいといえます。

作物の栽培サイクルは、葉野菜は1ヶ月前後、果菜類や根菜類でも2〜3ヶ月を目安に収穫が終わるため、うまくいかなければすぐやり直しができるといふ利点もある反面、栽培にかかる労力が大きいという事

があります。乾季は水源を確保する難しさがありますが、サラブリセンターでは、敷地内に多くの池を設置することで、乾季でも十分な水源を確保できるかんがい設備が整っている事が強みとなっています。

雨季のスコール対策は？

一方で雨季のスコール(集中豪雨)対策はどうなっているのでしょうか。それは、池や水田のような畑より低い土地をすることで水を早く外へ流し出せるようにしています。それでもスコールが激しい時期には、一時的に水位が畝より高くなるため、幼少期の作物は大きな被害を受けやすいという問題点があります。

そんなスコールの激しい時期でも、ワチャラコン氏が管理する自給自足型農園を覗くと作物が元気に育っているのを見ることができまう。他の畑ではマメ科の作物などが一時的な冠水で弱ってしまい、葉の数が少なく虫害に遭いやすくなっているのに対し、自給自足型農園では順調に生長しています。一体どうなっているのでしょうか？

その答えは、株元の土寄せにあります。スコールがまだ弱い時期にマ

メ科などの作物を定植し、スコールが激しくなってくる時期と作物の生長に合わせて、一つ一つの作物の株元を土で固め、株元が冠水しないように工夫をしていたのです。

成功の秘訣

この王室プロジェクトが自然農法を通して成功している秘訣はなんでしょう。それは、担当者が自然を愛し、変わり続ける自然の姿を飽くことなく観察する探究心の賜物だと思います。定められた時間内の活動に縛られず、早朝から鶏、豚の世話をしながら、野菜たちが喜ぶように夕方の日差しが和らぐ時間帯を活かして作物の播種や定植を行ったりします。また、生育にばらつきが出る場合は、作物の観察はもちろん、防風林による日当たり加減や土壌の水加減まで、圃場全体から問題点を考察するようにしています。そして、また何よりも圃場全体がいつも整っていて清々しく、花などが引き立てる美しい景観は担当者の愛情の表現だと思っています。

(佐野 雄次郎)